

〈編集後記〉

「相愛国文」第九号をお届けする。本号は国文学科専任スタッフ全員による執筆となった。忌憚なき御批正を切に願う次第である。

世上における様々な〈事件〉と同様、大学を巡る環境の変化には、正直云って驚かされるものがある。女子学生の四年制志向が指摘されて久しいが、本学周辺においても、最近頓にそのことを実感させられる。その一方で、短大から四年制への編入学という〈制度Ⅱ方法〉も定着しつつあると云う。「短大」「女子」「国文学科」——かつては揺るぎない存在であったこうした項目が揺さぶられている昨今。そうした環境の変容の中で、仮に「相愛の国文らしさ」というものがあるのだとすれば、それは一体「何」なのかを問いかけてみたい、問い続けていきたい、と願う。本誌の存在意識も、案外その辺りにあるのかも知れない。

(Y)

〈執筆者一覽〉

橋本 雅之	本学国文学科助教
鈴木 徳男	本学国文学科教授
山本 和明	本学国文学科専任講師
鳥井 正晴	本学国文学科教授
北谷 幸册	本学国文学科教授
柿谷 雄三	本学国文学科教授

相愛国文 第九号

平成八年三月二五日 印刷

平成八年三月三十日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学国文学研究室

〒559 大阪市住之江区南港中四―四―一

Tel 〇六一六二―五九〇〇(代)

印刷所 和泉書院

〒543 大阪市天王寺区上汐五丁目三一八

Tel 〇六一七七―一四六七